京都精華大学同窓会木野会　会報
http://www.kyoto-seika.ac.jp/seikajin/index.html

精華人 SEIKAJIN

2005
Kyoto Seika University
Alumni Association KINOKAI
SEIKAJIN
13

京都精華大学同窓会 木野会
京都市左京区岩倉木野町137 〒606-8588
T.075-702-5201　F.075-721-9019

Festival 祭!

座談会

て、どういう起源で始まったか。五月祭についてはまさに自主的に始まった学園祭であるというかたちで私は記憶しております。その中で、今の在学生たちが学園祭というものをどういうふうに見て楽しんでいるのか、もうちょっと精華らしい学園祭や木野祭というのを開催してほしいなという気持ちもありまして、今回「祭」ということをテーマにみなさんにお話を伺いたいと思ってお集まりいただきました。

こちらから紹介させて戴きます。68P一期生の赤坂さん。ゲイバーの一期生73Sの杉浦さん。75Dマンガ三期生の山倉さん、五月祭のいきさつや黒BOXについて詳しくお聞きしたいと思います。ちょうど短大と大学の過渡期、その頃に木野祭に関わってられた77Pの井本さん。それから、最近ですけれども95Lの柴田さん。途中95Lの嶋田さんにも加わって戴くことにしています。そして開学二年目から学生課でずっと学生の面倒をみて戴いたということで藤井さんにも参加していただきました。最後に私77Dの菜畠です。よろしくお願いします。

藤井　六九年から二十年間学生課の仕事をしていた関係で祭との関わりは当時はあったかと思います。今は就職課にいます。

杉浦　藤井さん何歳の時に来られたんですか。

藤井　二十六歳の時かな。

菜畠　お兄ちゃんみたいですよね。

柴田　すごい年の近い職員と学生ですよね。

藤井　そうやね。

赤坂　五、六歳ぐらいの違いかな。

杉浦　先生にしても三十歳台が主でしょ……。

井本　そんな若かったのか。

杉浦　だから何やるにしても一緒にやろ

菜畠　お正月早々ありがとうございます。昨今の木野祭について耳にすることがあるのですが、すごく学園祭自体がフリーマーケット的な存在になりつつあるということで在学生から学園祭がなくなるんじゃないだろうかというような話をよく聞くんです。卒業生、同窓会も毎年参加していますけれども、やはりそういうとこら辺が目につくというのもありまして。今までの学園祭の成り立ちから見

かという雰囲気がありましたね。

赤坂　一緒にやるかって言われました。

杉浦　当時の学園祭っていうのは、クラスごとに張り合ってたの。たとえば染織は「藍し亭」っていう何か和食処をやってたり。うちはまだゼロだったから何をやろうって、あれに負けないものをやろうって。結構そういう気合が先生と学生で一緒になってつくろうとしていた時代だよね。

赤坂　その話になると、やはり六八年に、第一回目の木野祭を十一月三日になぜやったかというところから話を進めないと始まらないんで。

菜畠　じゃあ、その辺のところから、起源を語っていただきたいと思います。

赤坂　六八年に開学したでしょう。六八年の夏に自治会をつくろうという話が盛り上がった。その時に、入江さんを会長にして、僕が書記長になって、それで各クラス毎に学生委員をつくろうという話で、絵画、デザイン、英文でクラス毎に学生委員をつくったわけだ。全学生、その時二一〇名、二〇五名か六名でその学生を自治会に向かせないかんと、団結出来る祭をやろうということになって、たしか九月ぐらいに自治会の結成。第一回の実行委員長になれという、入江氏に指名を受けて僕が着任しました。夏からの準備のタイミングで、たまたま十一月の三日が祝日だからその日になったわけ。

藤井　たまたま祝日だから。そこに意味があった。

赤坂　ううん、そんな深い意味は（笑）……

柴田　もうスピード決裁ですよね。

赤坂　じゃあどういうことでやるか。ちょうどその頃、学生運動で世の中騒いでると、できたところの大学を社会に対して、というとちょっと大きいけどね、どこかでアピールせんと、精華大学なんて誰も知らなかった。「精華大学ここにあり」ということをアピールせないかんというので、みんなそれぞれクラス委員の中の討議、自分らでやると。ゼロからの出発という、六八年。とにかく最初に決まったのは、デモをしようと、祭ね。それが第一回目の活動、パレード。とにかく精華大学の旗を持って外へ出ていきましょうというふうに始まったんです。元々酒を飲んだり模擬店をするっていうことはあまりイメージにない。一応決起集会で前夜祭をやって、二日の夜に今は明窓館が建っているところで、叡電から枕木をもらってきて、それを井桁に組んで、キャンプファイヤーをして、みんなが踊って酒盛りをして決起しました。それで三日それぞれ仮装したりして精華大学のプラカード持って出町柳に集まって御所まで行きました。英文科の人たちは、自分たちのサークルとか何かで展示をやったりもしてましたね。

柴田　パレードとか、学生そんなに人数ないじゃないですか。出席率ってのはわかります？

赤坂　一〇〇パーセント。（笑）　基本的に。信念というか、その時に参加しないという人は別にしてね。だって全部で二〇〇人しかいないんだから。

柴田　でもじゃあ、出町柳からパレードというのは、二〇〇人がパレードしたんですか。

藤井　教職員も一緒についていったでしょ。

柴田　それじゃ、一〇〇パーセント超えてたんですね。

赤坂　そうですね、それが第一回の始まりですね。

柴田　教職員も構成員だったんですね。

赤坂　それはやっぱり、岡本先生がずっとそういうことを言われてたのね。教員の人も職員の人も、みんなやはりそういう意識があったものね。学生も一緒でね。

杉浦　本当に先生と学生が一緒になって、わーっと準備してましたからね。やっぱりそれと、サービス精神も旺盛でしたよね。来てくれる人を、びっくりさせようとか喜んでもらおうというのであまり金儲けはなかったですね。

赤坂　だって、お客さん、いなかったもん。

藤井　だから当時、そういう共食いちゅうやつで。

杉浦　来るとしたら、産大の何か学ラン着た連中が来るぐらいですよ（笑）。

柴田　ある意味何か芸術の学生だったらどこもそうだと思うんすけど、自分たちが作ったものをみんなに見せる場所として機能していたと思うんですよ。

藤井　作品というか、よそではないようなものが見えるとか。作品そのものを展示するということよりも……

杉浦　自分たちのもっている技術でもって作ってしまうって、ところじゃないかな。

赤坂　それともう一つは、当時の美大の祭の流れが入って来てますよね。

井本　相撲大会とかやってたんですけどね。土俵を作って、俵を縫ってたら、泰造さん（村上先生）がやって来て「こうすんにゃ」と言って、俵作ってくれはって。

杉浦　何でもやるんや（笑）。

藤井　相撲大会やったなあ。肉襦袢着てのっしのっしとか言って、ごっつい膨らむやん、あれ。

井本　相撲取りの気分に、みたいな感じでね。学校をうろうろ歩きまわってました。

逆境も楽しみに！

杉浦　立体造形のゲイバーというのは、ゲイバーをやろうといったんじゃなくて、その前に「修学旅行やろうや」と、若狭のほうの民宿を予約してやろうじゃないかと言ったところ、クラスメイトの一人が「俺、行けねぇ」というやつが出てきて。「全員参加だよ、お前何で行けないんだ」と言ったら、家が稲刈りだっていうんだよね。「じゃあ、みんなでやるべ」って言って、おしかけて稲刈りして、仕事を片付けて、山を越えてわーっとワイディングロードを越えて海辺に下りるっていう途中で、一台の車が崖からおっこっちゃた。四台ぐらい連ねて行ってて。三人ほど病院に行ってるし。夜遅くには帰ってきたんだけど。それは軽症ですんでよかったけど。みんな落ち込むわね。そしたら泰造さんが「おい、男子、みんな化粧せえ。景気づけに今からやるぞ」と。女子学生もいますから化粧品みっちり持ってるし。だんだんみんなその気になってきて（笑）、異様な空気に包まれる。U1君とU2君と僕。この三人が非常にきれいだった。

一同　（笑）

杉浦　「これ、いけるよ」で、やろうということに決まっちゃった。当時僕は学長にご指名を何回も戴いて……（一同笑）膝に座らせられて。だっこちゃん状態です。事故が原因で、ある意味これも芸術作業の一つかな（笑）。

近くの某大学の黒い学生服を着た人たち

が「なんや女装しくさって」って言って殴り込んできたんですよ。店のママが泰造さんだったのね。黒い紋付着て、「あなた何よ。外出なさいよ」とか言って、外へ出てぼこぼこにやった。

菜畠　用心棒がママだった。（笑）……そうか。

赤坂　六八年は始めてだから、六九と七〇年ぐらいはね。祭やると、やはりおまわりさんがだーっと来てね。

杉浦　その後の七七、八年が学祭としてはピークでしょ？

菜畠　ゲイバーも色々伝説をおもちなんですね。その前後、朽木学舎での夏祭り、一流の寿司屋や露天風呂などもあったようですが、七七年に五月祭が始まりますよね。

赤坂　うん、そのへんを知りたいな。

山倉　黒ボックスは私と友人達で作った不法建築物です。その撤去のイベントを「五月祭」として祭りにしました。短大から四年制に変わろうという時期で、大学入り口の石垣に幼稚園の様な能天気な落書きは京都新聞の記事にもなったし、事務局前の道の真ん中に建ってる黒ボックスも問題だったし、大学にも審議をする役人にも目障りだったのだと思います。どちらも私の作品だ！と言い張っていたので「大学が坂の落書きを消すので山倉は黒ボックスを撤去してくれ」と事務局の誰か…藤井さんだったと思いますが口約束したのを覚えています。

藤井　えっ、そうやったかねえ…。

山倉　そして、どうせ壊すなら楽しく壊そう！と七七年五月二日から三日の金曜日までの一二日間を「五月祭」としたのです。（え～？なが～！）長いですか？五月祭は毎日が楽しくて、あっと言う間の祭りでしたよ。はじめに「十三日の金曜日に何かが起こる！」と言うキャチコピーと炎に包まれた野外ライブのイメージが出来たんです。で、スタートは私の誕生日にしょうと、ポスターやチラシも作りました。安易ですかね？（笑い、私物化ちゃうの！）

菜畠　私はその時フォークソング部に入っていたんですけどフォークソングの舞台は何分とか言うふうに決まっていて、入学して一カ月ほどだったんだけど軽音とか順番に出ましたね。

山倉　十三日の「ビックママ・ブルース・フェスティバル」は盛り上がりましたよね菜畠さん？。ステージは黒ボックスの前で．夜のライブで軽音のブルースバンドがラストステージで佳境に入ったときに、私が黒ボックスに火を放ったんです。灯油やらガソリンを撒いていたので炎が十メートル以上も上がって、炎のライブは全員を興奮させました。誰かが「火を消せー！」って叫んでいましたがライブの音量と歓声にかき消される程でした。危険を察知した泰造さんが頭から水を被ってチェーンソー持って炎の中に入っていったんです。狂ったようにチェーンソーを振り回して黒ボックスを倒そうとする泰造さんに罵声を浴びせたり、涙を流して泣く学生がいたり、酒と音楽と泰造さんの炎のパフォーマンスに会場はトランス状態のようになりました。あんなライブは誰もが初めての経験だったと思います。ウッド・ストック以上でしたね。

柴田　菜畠さんもその時の学生ですか？

菜畠　はい、そのとうり。そちらの井本さんも同期です。

井本　はい、僕もいました。

柴田　と言うことは歴史的な時代の学生なんですね。

菜畠　いろんなイベントが目白押しにありましたね。学校主催じゃないと思いますが、何か裸の人が金粉を塗って坂を歩いて来たりして、純粋な子なんか泡吹いて倒れたりして救急車が来たり。ショッキングなことがありましたね。私なんかここは悪の巣窟かと思いましたね。（笑）

山倉　みんな記憶がバラバラになってるみたいだけど、昼休みの「金粉ショー」も日没から本館の壁に野外「日活ロマンポルノの上映会」、真面目なところでは「憂歌団のフィルムコンサート」など、どれも五月祭のイベントですよ。もう内容を思い出せないくらい毎日忙しくあれこれやっていたんですよ。自発的に出て来た小さなイベントの集合が五月祭だったと思う。金粉ショーも友達の舞踏集団・日本維新派に頼んで赤字を埋める募金活動の為に企画したイベントだったのです。確かに非日常が真っ昼間に起こり、何人かが気絶したり、ヒキツケを起こしたりで、募金集めどころではなく口にハンカチを押し込むのに追われていました。ダンサーはウケてると思って踊り狂ってるし散々でした。何かあると事務局に釈明に行くのですが、祭りは元々何が起こるかわからないから興奮するものでしょ。

菜畠　黒ボックスは事或るごとに話に出て来ますが、赤ボックスもありましたよね。

柴田　えっ、赤ボックスってあったんですか。

杉浦　僕が知る限り初めは赤じゃなかった様な気が……。

藤井　あれは自治会室があったんやね。その前に英文科のイングリッシュハウスだったかな。あれ、赤く塗ったのは何でかな学生だと思うけど当時の人に聞いてみんとわからんけど。

山倉　ごめんなさい、私が七六年六月に赤く塗って「赤ボックス」と命名しました。

藤井　また、お前か。

井本　藤井さんも知らなかった三十年目の真実やね。（爆笑）

キングコング炎上中継

菜畠　話を学祭に戻しますが、キングコングもありましたよね。

井本　火を付けたのは僕です。（一同　笑）

菜畠　そうじゃなくて、企画とか。

井本　ゼミのクラスで何か面白いことをやろうと、でっかいキングコングを作って屋上にセットして腕を上げたり、火を吹かしたりして。その下の三階から脱出袋を使ってファッションショー仕立てのステージが繰り広げられたんですよ。僕はふらふらしてたので「お前、手伝え」とか言って、やったんですね。けど教授が率先してやっている感じがあって、何かもう他には負けるなみたいなね。他は何か四十八手の垂れ幕みたいなのをだーっと貼り出してて。

杉浦　それはどこが作ったんです？

井本　それは絵画ちがうかな。

菜畠　子供の絵が全部集まると、深作さん（当時の学長）の顔になるっていう。

井本　何かすごい大きい立派な作品を作られてて、本館の上から下まであって。あれに負けるなと。絵画に対抗してデザインもやった。僕は絵画だったんですけどね（笑）。

赤坂　じゃあ、火を付けたって意図的に点けたわけですか。

井本　いや、そんなことないんです。キングコングがガオーッと手を挙げる係とか、目を光らせる係とか。口からガスが出たら、それに点火する係とかっていろいろ分担でやってたんですけど、口に火を点けて引き際に手の係が手を挙げたもんで、火がついてしまったんです。

藤井　口からバーっと炎を上げたらすごかったやろね。

井本　何回かは成功したんですけどね。

藤井　テレビカメラが来てたでしょう。口から炎が出るというところが本当は映るべきが……

菜畠　炎上してしまって（笑）。

藤井　それとか、本館の前でプロレスやったことある。覚えてないかな。リングを組んで、近所の子供らが、もうわいわいと集まって、面白かったんやろうな。

菜畠　思えば個性的なイベントが企画実行されたんですね。

杉浦　九〇年代はどう……

柴田　そういう話のために実行委員長がもうすぐ来るので。僕は自治会だったんですが、赤坂さんの時代から変わってきて、自治会と祭実行委員会が完全に分かれてるんです。自治会はオブザーバーというか、横に立っていて、予算を渡している団体として存在してたので、イベントからは切り離されてたんです。当時の祭とやはり違うなという部分がありましたね。

祭の視点

赤坂　最近の祭見ていて思うのはね、おもしろない。何のために祭をやってるのかっていうことが、みんな見えなくなってきている。

杉浦　そうですね。何かちょっと僕は見てると、高校時代の延長線上のことをやっているような。ちょっと辛口に評価させてもらうと。もうちょっと自分のやりたいことをやったらって。

柴田　学生の中でも、昔みたいにみんながつくってたというんじゃなくて、ホスト側と、ゲスト側、という分かれ方が今はもうあります。つくるっていう意識はないですよね。切ない話ですけども。そこにやっぱり主催者側と参加者側の温度差みたいなものがあるんですね。九〇年代のいやなことばの象徴だと思うんですけど、「大学側」ということばがあるんですよね。やっぱりこれ昔はなかった。使われたとしても意味が違っただろうなと思うんですよ。

杉浦　そうだなあ、ないなあ。

嶋田　遅くなって申し訳無いです。

菜畠　丁度九〇年代の話をしています。

赤坂　どこかで大学が都合のいいように言ってきてるというのがあるんですよ。つまり大学側が祭をどう見てるかというスタンスがあると思うのね。合法的に精華の祭みたいなものを売り物にしようとか、考えた時もあったわけだし。一方では売り物にしようと思いながら、地元との関係の中で騒音の問題やいろんな問題があったりしてくるわけです。

杉浦　それは学生にとってみたら、そういうことってあまりわからへんからね。去年までよくて、何で今年がだめなんや。去年だめだったのに、何で今年がいいの、みたいなところが、どこかあるからね。

嶋田　ただ、僕らの頃「大学側」って使ってましたけど、ある種の何か反抗することのかっこよさという意味合いで、それで学生の祭やというのを強調したかったという部分あるんですよね。だからと言って、学校が完全に敵ではなかったんですよ。

菜畠　最近聞いて驚いたんですが、五月祭にも大学からお金が出てるんだそうですね。

嶋田　同じような額、出してますよね。

赤坂　そう。木野祭と五月祭と同じだけ出してる。

藤井　これは、最初の頃はまずなかったね、とにかく。

山倉　勘違いされても困るけど、予算はカンパや自腹で五月祭が出来た訳ではないですよ。自治会から工面もしてもらいました。現在みたいに、はじめに予算ありきは変だけど。予算を使うために五月祭を行うとなると本末転倒ですね。

藤井　補助してほしいと言ってきたんで、要望書を書きなさいと言って、書かせた覚えがあるなあ。

菜畠　今の五月祭と木野祭の違いというのは、要は期間の問題だけなんやね。金曜日ぐらいからちょっと店をだして。ほとんど木野祭と変わらないぐらいに近くなってきたという。元々黒ボックスを燃やすところから始まって、学生たちが自分たちの世界を自己表現をするためにやってきたのが、だんだんイベント化というか、定例化してしまってね。

杉浦　ことの起こりということをね。伝わってないと。

嶋田　木野祭とほとんど変わらないと思います。ちゃんと学校が休みをとってるかとってないかの差と、あとちょっと長い、木野祭のほうが。一日長いぐらいの。

藤井　今は金曜日の夜から実質的に前夜祭というのが始まるわけ。

柴田　そうそう、土曜日に建ってないと、日曜日を満喫できないという雰囲気の中でやっていますから。

杉浦　精華の歴史年表みたいなものをちゃんとつくって、これ読んでからやれって（笑）。何でお祭あるのか知ってっかって。その起源を。

柴田　五月とかだと、わりと黒ボックスの由来みたいなのがポスターに貼り出したりしているんですよ。

杉浦　あ、そうですか。

柴田　ただそのポスターに貼り出したということと、やっぱりそれを読む側の問題というのがあって、単純につながらないようなところがあるかも知れないですけど。

菜畠　最初黒ボックスを燃やしたのは、それはその年の単独のイベントでね。「ノーレインコンサート」というので、翌年から定例化するイベントになってるんですよ。私が知ってる限りでは、五月祭は授業の後にするのが原則だというのが、学校側との約束やったはずなんやね。で、もう一〇〇パーセント自分たちでつくり上げる祭やというものだったんですよ。

嶋田　どこでそう切り替わったのかわからないですけど、僕らの時に関して言うたら、大学が五月祭をすごい売り文句にして、入試の広報活動なりとかいろんなことをやってたから。逆に言うたら、僕らやる側としては、当然の権利みたいな状態でしたね。

杉浦　それはよく聞くね。精華には年二回の学祭があるというか。それがパンフレットにコピーありました。

嶋田　それと、意識も変わって来ているし、魅力がなくなったんちゃいます。やっぱり僕ちょっと思うのは、精華大学入ってくる、その宣伝の話でもリンクする話なんですけど、いろんなうたい文句で「おもしろそう、精華おもしろそう」で入ってくるじゃないですか。実際そうじゃないというギャップの違いちゃいます？過剰表現だけ知ってて。

藤井　大学にいて学生がどういう学生生活をおくるかということになるんですね。学生がどう思ってその大学に所属してるかということですから、祭の中身みたいなものが伝わってないと思うんですよ。これは私の個人的な意識の中で言うと、祭の実行委員の人たちって芸術学部の人たち、最近ほとんど参加してないんじゃないかな。

嶋田　僕らの時、芸術多かったですよ。

藤井　学生生活、授業じゃなくてね。その大学生活と四年間の生活の中で、芸術学部の学生が授業以外で関わること、クラブも含めてものすごく少なくなってる。九〇年代までは、さっきからの話じゃないけど、どちらかと言うと短大の英文よりも、美術科や芸術学部の学生たちが中心になってそういうものを、イベントをつくってきてね。そこら辺でちょっとあり方が変わってきてるのかなという気は、僕はしてるんだけどね、個人的に。

柴田　さっき嶋田が言ってた、ものすごい単純な言葉ですね。魅力がなくなったんじゃないの、というのは。単純でものすごい痛い言葉だと思うんだけど。何かここにこだわりたいなと思うんですよ。たとえば今、僕たちが九〇年代中盤以降の人間じゃないですか、この二人は。で、いわば、別に席を分けるわけじゃないけど、七〇年代ですよね。だから八〇年代

九〇年代はここにいませんよね、今。それが一体なぜなのかということを考えたいところもあるし。魅力がなくなったと言いながら、でもたとえば九〇年代の僕たちがこの同窓会の場所にいるというのは、やっぱり依然として精華大学は何か魅力があるはずなんですよね。でも嶋田が言うようなのが本当だと思うんですよ。魅力がなくなったということだと思うんですよ。

嶋田　だって魅力がなくなったのと、何か用意されへんかったらできない、もう言うてしまったら、ガキンチョ増えましたね。

杉浦　君が言うか。

嶋田　ええ、言います。僕はもうおもしろくなかったら、おもしろく変えるっていうことを教えてもらったんで、精華では。

杉浦　俺の息子、九九年入学の立体造形なんですよ。俺の息子。あれは楽しんでましたよ、祭を。祭があるから行ってるんだみたいなぐらいに。

嶋田　そうか。そういう子たちって、すごい自分で楽しみをつくる力ってのがあったんですよ。

杉浦　その人数が減ってきた。だんだん…

嶋田　減ってきていますね。

杉浦　新入生歓迎なんか、無理やりでも祭にしちゃいますわね。最近それが集まらないというのは、そういうことをやっていないのか、あるいはやっても無反応なのか。

嶋田　やってます。だから、最初のうち、僕ももうほんま卒業できない社会人言われてるんですけど。しょっちゅう行ってて、やっぱり最初の頃人多いんですよね。「ああ、今年もいっぱい入ったやん。よかった」みたいな感じで飲んでて、ふた開けて、いざ学祭の当日になったら二人しかおらへんとか。

杉浦　他にいろんな楽しいことがいっぱいあるから、今。

嶋田　ありますね。

杉浦　大変だよね。そこに一点に決めるというのは。誘惑多いし。僕らの時、学校の仲間と遊ぶのが一番楽しいぐらいで。そんなの自慢してもしょうがないんだけどね。何か歌の「チキンライス」じゃないけど。

菜畠　でもそうやったよね。今、ここ一、二年の学祭を見て思うのが、私も遅くまでいるからそういうところが目に付くのかも知れへんけども、そうしたら、自分たちのテントでもう囲っちゃって、自分たちだけで楽しんでる、五、六人で。外の人を受け付けない。

杉浦　サービス精神ないな（笑）。

菜畠　うん、っていうのがすごい目に付くんやね。

杉浦　おっしゃる通り。

菜畠　「あっ、売上達成。ばんざーい」で、もうそこで自分たちで飲み会を始める。何かそこを覗いたりすると、「軍資金出してへん人は来たらあかんで」みたいなイメージをものすごく受けるんやね。そやから、ものすごく個人主義になってきてしまってるという感じを、すごく受ける。それこそさっきの相撲大会じゃないけども、坂を転がってくる相撲とりがいてて、みんながそれを見て「キャーッ」て言うようなものが、全然目に入ってこない。入ってくるのは、どこでもやっているようなフリーマーケットスタイルの古着屋など。

杉浦　普通のことやってる。ひねりがないもんな。

菜畠　関係者以外の出店を認めなかったと思うのですが。それが今、何か無秩序になっているような印象で、金儲け目当ての外部の店があちこちすぐできる。これも何か影響してる感じはするけどね。

嶋田　あれ最低ですよね。

杉浦　精華の学生があくまでも主体で、そして精華の、共食いという言葉も言われたけれども、それでお客さんはお客さんとして来る。商売しに来るんじゃないと。そういう何か雰囲気を守っていこうとしてたんだと思うんだけどね。それが崩れてきた。僕らの時は、まあそんな外部からの客来ないけど、来てくれた人が楽しんでくれるこがまず第一というような、営業方針みたいなのがあってね。楽しませよう、みたいな。サービス精神だけはありましたね。

藤井　ちょっと真面目な言い方をすると、精華大学の祭に何の目的で来るかという。外部の人が。内部はもちろん別の話。そういうのがあるんですね。最近はね、最近というのは、ここ四、五年前までは、とにかく外部の人来てもらってにぎやかにしようという、ある種の意識があって、関係ない人とかは、別に精華が何であってもかまわないんです。一時学祭がものすごく荒れかけたことも。

嶋田　荒れてましたね。そこからものすごい厳しくなりましたね。

杉浦　だから、本当におもしろおかしくやるっていうのは大変なんだね。

藤井　それは原点に戻って言えば、精華大学というのがあって、そこにいる学生がどういうことを主張したり、それ別に酒を飲むことでもいいと思うんだよね、僕は。何でもいい。とにかく学生の学生生活をどうつくっていくかという視点で、主体性をもってやればいいんだと思う。

井本　要は、学生は楽しんで、それを周りにも振りまいて。周りというのは外部からのお客さんもそうやけども、教職員も。で、それもまあ喜んでもらえる。これがやっぱり目的だと思うのね。もうちょっと真剣に考えないと、本来の精華の祭もなくなってしまうんやないかと。

自由自治の下、祭は？

柴田　また新たなターニングポイントに入ってるということかな。先程のお話のね。話をまとめようとか思っている訳じゃないんですけど。僕たちがここで祭りの話をすると言うことも、意味がきっとあると思うんですけれども、昔はよかったって話と、今の祭りには問題があるって事は、徐々に浮き彫りになっていくじゃないですか。じゃあ同窓会と祭というのは、たとえば今後、祭が生き残ったり、祭の意味があるように同窓会が関われるんですかね。

杉浦　自治会のお許しを得なければ、私どもは同窓会もうまく参入できない。結構ね…

柴田　いや、それは悪い意味で、その自治会の官僚主義のルールにこっちが乗っちゃうからよくないんですよね。だから、乗らずに何か変な、ちょっとずるい精華大特有の反則技みたいなかたちで。

杉浦　ゲリラ的に……

柴田　そうそう、それこそ……

杉浦　やってしまおうかみたいな。

菜畠　また大変な。

柴田　いきなりな話になります。極端な話にきましたね。

井本　革命的な。
嶋田　同窓会で仕切る。
杉浦　でね、いや、徹夜できるぞって。
一同　（笑）
柴田　徹夜できるやつにやらせるか。
杉浦　くたびれちゃって（笑）……。
井本　祭というのが、やっぱり自由自治とどこかでからんでいるのかもわからんですね。
杉浦　そうですね。
山倉　自由自治と言う言葉はシビレましたね、高校生だった頃に精華大のパンフレットを見て、この言葉で千葉県から京都の学校に行こうと決めたんですから。私にとって理想の大学だったのですよ。だから入学してからも、理想の学生生活を謳歌する為に黒ボックスを作ったり五月祭やったりしたんだと思います。自分が面白いと思うことは他人もきっと面白いと、確信していましたから、いつも自分が楽しむためにやっていました。呆れられていたかも知れませんが。
藤井　与えられた自由があるというふうに思うのはそれはおかしいんであって、そのプロセスが大切なんだということをみんな考えなきゃならない。だからそれはあったらそんなもの勝ち取る必要ないわけだから、それに向かって、目標に向かって、目標というか、それに向かって日々やっていくことの中にこそ、本当の自由の道があるんだということ。やはりプロセスだと思うわけ。考え方じゃないと思うんだね。そういう気持ちをずっと持ち続けること。持続して持っていくこと。それがやっぱり一番って感じる。
柴田　この時期には祭をやりますよというふうになっているのは、勝ち取ったものでもなんでもなくて、決まっていることですよね。
杉浦　行事だな。
柴田　そうですね。自分たちがつくったものだったら、もっとがんばると思うんです。
杉浦　一回やめちゃえよ。
山倉　自由自治の下、祭りはどうあるべきか？は結論は出ないでしょうが。いつか新しい学生が面白い事がしたいと欲求不満になったら、また何か生まれるんじゃないですか。祭りの本質も学生生活も、与えたり仕切られる事ではなく、苦しみながら自分で興奮してモノを発見しないと記憶に残らないですよね。

嶋田　と思います。本当に思います。
菜畠　学校も「五月祭どうするんや」って声かけんと、知らん顔してほっといて。
柴田　五月祭が生き残るとしたら、やっぱり学生がもう一回見直さないと。
菜畠　立て直さなきゃね。山倉さん何か新しい構想があるんでは……。
山倉　何かあーせー、こーせーと言うのは所詮うまく行かないと思います。私が今面白いと思うのは、あの坂にタムロしているフリーマーケット達をけ散らしてしまうようなこと、例えばあの坂を「神楽坂」と銘々して各学部が御神輿を作ってあの坂で「ケンカ神輿」をする。プライドをかけてぶつかり合う、落ちたら負け。残ったただ一基が坂の途中の黒ボックス跡に一年間祭られて精華の神としてあがめられる。ってのはどう？祭りの原点みたいでしょ。
井本　おもろい！けど今の学生そんな野生になれるかな？
多少そんな発想もほしいね。
嶋田　そういう人材をつくるほうが肝心かな。
菜畠　これからも精華大学の名物にもなっている二つの祭りがフリーマーケット化しないためにここで警鐘を鳴らしたいと思います。
山倉　祭りの講義や、説教しに来るのは御免です。少子化問題やら経済的に立ち行かなくなったりして大学が潰れる時には、同窓生全員集めて「大五月祭」をやりましょう。その時は大学に火を付けに行きます。
菜畠　やっぱり、何かせずにはおれませんか。（笑）火をつけるか！ならば、前の日に私ら自腹で黒ペンキ買って塗っとかなあかんな。（爆笑）
今日は仮装もせずお集まりいただきまして、ありがとうございました。

【文責：木野会編集部】

2005年1月3日　祇園にて

第11回 数珠つなぎ

京都精華大学 木野会

■精華大学同窓生、職員を交えて、数珠つなぎで紹介して頂いています■

スタート

68E 林　直子（旧姓 相原）
68E 野村 久子（旧姓 岡本久）
68E 黒田 妙子（旧姓 塩見）
68E 高橋 洋子（旧姓 山形）
68E 平尾 律子（旧姓 新池）
69D 森下 み令（旧姓 吉岡）
69T 福田 妙子（旧姓 北河）
69T 牧田 通子（旧姓 辻）
69T 今井 真理子（旧姓 保母）
69T 小林 ふみ子（旧姓 依田）
69E 松下 恵子（旧姓 寺尾）
69E 久留島 光子（旧姓 玉江）
69E 臼井 真利子（旧姓 中村）
70P 村岡 顕美
71P 高倉 哲法
82S 森田 洋子（旧姓 大見ひろ子）
71P 高橋 雅史
86P 米田 和秀
86P 築山 佳民
87P 堤　武士
87P 小椋 和明
87P 後藤 智子（旧姓 黒川）
85E 福田 絵麻（旧姓 藤井）
85D 藤原 恵津子（旧姓 西田）
85J 日浦 美穂
85J 山中 麻由美（旧姓 山中）
86T 山岸 大晃
86S 黒田 悟一
84S 和知 篤司
82M 光藤 佐
82M 田中 今子（旧姓 佐藤）
83P 深井 郁子
81Z 山口 裕之
82J 山口 里香（旧姓 寺村）
81D 川人 祥弘
81Z 村尾 すなほ
81Z 谷口 年三
89J 田畑 稔
89J 高戸 涼子
89J 釣井 明
87C 高田 典行
87C 中井 和仁
87C 中井 公子
88J 西村成生
86S 高橋 克明
77S 浅井 直美（旧姓 清水）
79XZ 岡山 智子（旧姓 高橋）
74D 増田 祐三
74D 吉村 弘之
74D 野村 宗男
74D 渡辺 均
74D 阪　七絵
74D 山羽 敦子
74P 野中 美智子（旧姓 広瀬）
74P 辰巳 理香
74T 網　美恵
74T 佐藤 節子（旧姓 横田）
74T 藤本 睦子（旧姓 山内）

72T 吉田 真弓（旧姓 三ツ柳）
72T 阿部 和子（旧姓 吉川）
72T 加藤 由美子（旧姓 石橋）
72T 墨　豊紀代（旧姓 石原）
72T 原田 剛照
79Z 宮永 健次
79Z 渡辺 美智雄
79Z 上原 宏子（旧姓 高井）
75D 木曽 健司
76D 大江 有紀子
79D 永井 聖人
95L 湯田 直樹
94L 結城 大介
90L 村上 雅樹
90L 大政 優子（旧姓 南）
87H 高井 利江子（旧姓 石原）
88T 宮地 隆幸
88T 近森 知代（旧姓 武山）
88T 近森 あかね
90XC 中森 知恵（旧姓 宮嶌）
88U 佐藤 朱美（旧姓 今川）
81S 外磯 秀紹
84S 伊藤 隆蔵
84S 村下 泰清
84S 石田 純之
82P 渡辺 裕之
82J 半井 映子（旧姓 大西）
82J 定井 珠女（旧姓 末田）
82P 北原 洋子（旧姓 太田）
82M 梅田 千絵
80D 尾角 裕二
79Z 清武 博二
83T 尾角 さよ子（旧姓 森）
81Z 清武 雅恵（旧姓 村井）
77T 松岡 洋史
81D 松岡 浩美（旧姓 石本）
81Z 早野 真美（旧姓 岡本）
81Z 藪下 淳子（旧姓 櫻井）
81Z 樫　正浩
81Z 朝田 徹
81Z 谷添 聡
83P 三木 千種
74立体4 上野 雅夫
96T 林　幸世
96T 中明 千賀子
98H 伊藤 真一朗
96H 小谷 純平
94U 松本 和美（旧姓 前川）
94T 中谷 愛
94L 蜂須賀 幸子（旧姓 竹岡）
94U 岩下 志帆
94U 上谷 要（旧姓 平野）

①96MU2　中村知子
●大阪府泉北郡在住
前略、皆様お元気でお過ごしですか。
私は、いろいろありましたが、昨年後半にひょんなことから今の設計事務所に勤めることになり、忙しいながらも日々を過ごしております。
やっぱり建築楽しいです。
いつか笑顔でお会いできることを楽しみにしています。
どうぞお体ご自愛ください。かしこ

②97MP1　小池めえこ
●京都市左京区在住
きげんようくらしています。

③93L175　櫻井夢子
●アメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストン在住
ボストンに住んで3年になります。今年は大統領選挙も経験しました。戦争中のこの国には誰も遊びに来てくれないので、現在夫とふたりで、ここから脱出して京都へ帰る準備中です。

④93L215　須田　馨
●大韓民国ソウル市在住
今年は戦後60年！私は日本軍「慰安婦」問題解決のため活動している韓国挺身隊問題対策協議会で働いています。92年に始まった水曜デモも1月12日で640回になりました。去年は7人のハルモニが、今年に入ってすでに2人の被害者が亡くなりました。この運動に関心のある方はご連絡下さい。teitaikyou@hotmail.com

⑤93L221　瀬山紀子
●東京都文京区在住
04年に、70年代の日本の女性解放運動（ウーマンリブ）を生きた女性たちへのインタビューをまとめ、ビデオ作品『30年のシスターフッド』をつくりました。精華卒業後、東京で生活をしながら、書き物とビデオをつかった記録・表現活動を続けています。

⑥93L418→95M　森田名美子（旧姓 森本）
●奈良県大和高田市在住
●似顔絵で地域まちづくりに協力他イラストデザインとおえかき教室をぼちぼち。
セーカ時代は心の病の霧の中、卒業証書はつかまねど、祭の自由を吸い取りて、我・地方におりたれば、そこにセーカの音がする。ナンチャッテ。99年に大阪ホルモン屋台とっぴんしゃんのおやぢと結婚、年の差30才カップルで現在二児・二箱婆で生活の苦しみを楽しみつつまつりの創造をしております。来たれ！セーカ人！地方精華化実行委として立ち挙がれ！（ママ）また、完全ボランティアで獄中の受刑者との文通により、我が心の病をネタとして使用可能の所へ配膳させてもらうに至ってオリマス。

⑦95M　諏訪田尚子
●京都市下京区在住
京都に住み始めてはや十年。卒業後は広告デザイナーをして走り続けてきました。名美子さんに誘われ、似顔絵デビューも果たせました。
四年前の森前首相の神の国発言で辞任にまで追い込まれた背景に疑問を持ち、自分の住んでいる日本という国をみつめ直したく、国民文化研究会に入会。自分の国を誇りに思えるような教育を施さなければならぬと痛感する日々。

⑧95M20　早山二美乃
●長野市在住
●株式会社クリエイティブヨーコ勤務
現在勤めている会社の店舗で2年働き、今はペットグッズの企画仕事を楽しくしています。
最近、十年前に書いた夢リストを見つけ…。今はその夢実現に色々チャレンジ中です。
今月（二月）から英会話を学んでいます。

⑨95M31　藤井理枝
●神戸市西区在住
●ハウスオブローゼ勤務
加藤登紀子さんの「時には昔の話を」（「紅の豚」主題歌）をご存じですか？この曲を聴くと精華での学生生活を思い出します。時々カラオケで歌うんだなぁ。みなさん、お元気ですか―!?胸にジンと響きます、お薦めですよ！

⑩95M14　謝花喜良
●大阪市西成区在住
現在仕事は、カバンの企画デザインをやっております。
卒業後（年半は販売員等をしながら見つけたやり甲斐のある仕事です。いつか自分のブランドを―と、常に上を目指してギラギラした毎日を過ごしています。

⑪95M23　玉本智鏡
●滋賀県蒲生郡在住
●大垣書店外商部勤務
少し長めに大学と先生方にお世話になり、現在仕事でも精華にお世話になっています。精華の空気を吸ってしまうとなかなか抜けだせないようです。

⑫75E　河内郁夫
●京都府京田辺市在住
現在の大学は私がいたころに比べると、敷地も施設もさらに駅までできて、とても大きく立派になっていますね。
いま京都の老舗の大垣書店　烏丸三条店に勤めています。
お近くに来られたときは是非お立ち寄り下さい。

来年の一番　75L　西谷浩二さんから

はたしてそんな事本当にうまくいくのかという周りの心配と「必ず面白い同窓会になるさ！」という東京支部の決意も挫けそうになる程ハラハラしっぱなしだった今回の同窓会。新宿の集合場所に続々集まってくれた懐かしい顔や新しい出会いがそんな心配を忘れさせてくれました。当日のキャンセルもなく集まったのは現地集合1名も含めて35名。上は68年度入学から98年度入学の人まで歳の差30年、ほとんどの人が初対面であるにもかかわらず、きっと忘れられない出会いがあったはず。それでは参加者のメールです。

編集部　今回ご参加いただいてありがとうございました。いかがでしたか？

●はい。93L石原将星です。

先日は世話役おつかれ様でございます。いろんなやつがいたけど先輩方の精華を愛する姿勢に感銘。若いやつらはまだまだかなわんー

●木野会の温泉一泊同窓会、お疲れ様でした。

91Mの塙阪（ハネサカ）みさです。

初めての参加だったので、緊張して集合場所に行きましたが、皆さんが明るく、ユーモアたっぷりにいろいろ盛り上げて下さったので、精華人ではない友人ともどもとても楽しかったです。精華大学に通っていた頃を思いだし、精華パワーを充電させていただきました。

こちらに来てまだ2年で、都会のスピードに慣れなくて、少し疲れていたので本当に楽しかったです。ありがとうございました。友人からは「すっごく楽しかったです。いっぱい笑わせていただきました。ありがとうございました。」というメッセージをいただきました。また、何かありましたら、参加したいと思います。

●いろいろありがとうございました。

本当に楽しいひとときをすごさせていただきました。結婚して子供を持ってから、すっかり家庭に引きこもり、学校と家庭とおばちゃん世界にどっぷりつかっていた私は、たった一人の温泉旅行など考えたこともなく、一人で町を歩くにはどうすればいいか、と戸惑いすら感じてしまうようになっていました。

そんななか、この大人の温泉旅行に行くことなり、実のところ不安でした。若い人たちの中、浮いてしまい一人取り残されてしまうのではないか・・・・・・などなど。

しかし、精華パワーがそんな気持ちを一掃してくれました。なんだか不思議な一体感を感じました。とてもとても楽しかったです。

世話人の方々や本部、支部の方々にはお世話になりました。また次回も参加できればいいな、と思っております。

77P　吉岡　かゞり

●ホントにご苦労様でした。

もう？れは取れましたか？私の方は何か、まだ、夢の中です。

先輩のおじさんが、後輩の若い女性をいじめてるような感じになってしまいましたが、まあ、しょうがないでしょ。しかし、後輩達を見ていて、この私の人格も精華で培われたものだということがはっきりしました。

「まちがい、ない。」みんな、私同様馬鹿でした。

必死で生きているのにどうみても、お気軽に生きているようにしか見えません。

4年後といわず、毎年でもOKです。台湾？いいじゃない。

ご苦労ですが、企画の方たのみます。

では、近い内に、慰労会でも。

74D伊藤俊文

●おつかれさまでした。

大変、私は満足の一泊二日でした。良い機会を与えていただきありがとうございました。

一生深い傷になり残る事でしょう。最後、皆様とお別れのご挨拶としばしの茶会のご勧誘を提案しておりましたが、急激にうんこがしたなって帰路にたたさせて頂きました。

しばし、新宿駅西口に待機し、送り狼と化しておりましたが女性の方の顔がさっぱり記憶になく、西武新宿線急行上石神井下車、西武バス長久保経由にて帰りました。

帰った途端小学二年の次男に何処行って来たの？聞かれたので，鬼怒川温泉、秘宝殿と言ってしまいました。

其のまま学校の作文に書いてしまい女房にしかられました。　良いご縁、ありがとうございました。山倉様以下、スタッフの皆様ありがとうございました。

78Dネッシー木村昭夫

●楽しい企画をありがとうございました。

こちらこそ、お疲れ様でした。

おまけに山倉さんには手相も見て頂いて大満足です。

私は、今回初めての参加でしたが、卒業して20年が過ぎ、ちょっと真面目になりかけていました。

宴会で多くの方々とお話をさせて頂き、「精華人」のあり方を再認識しました。仕事と遊び頑張るぞ～！

79Z渡辺悦子

●同窓会、本当にお疲れ様でした。

今回、忙しくていけるかどうか微妙でしたが参加できてホントによかったです。

その余波で昨日今日と半死にですが、とっても楽しかったです。

また、参加したいです。

ありがとうございました。＆お世話になりました。

86M　村上　賢

P.S.参加された皆さんのメルアドを教えていただけませんでしょうか？

いかがわしい事はしませんので（笑）

●東京支部の皆さまへ

9/11～12の2日間、お世話になりました。

木野会東京支部同窓会報 KYOTO SEIKA UNIVERSITY TOKYO NETWORK
EDO NO KAWARABAN 江戸の瓦版
9
木野会東京支部事務局　Tel 03-3202-9696
山倉研志方『木野会東京支部』　e-mail ：kenshi_96box@ybb.ne.jp

木野会東京支部の温泉一泊同窓会
「大人の修学旅行2004」周りの心配をよそに決行

おかげさまで有意義な2日間を過ごすことができました。

これに懲りずまたお誘いいただきますようよろしくお願いします。（但し、手間がかかることが多くなるかも知れませんが？）

木野会滋賀支部　81F角井佳子

●修学旅行の想い出

86F　山口　泉

子供の頃、修学旅行のあとやら、運動会のあとやら、遠足のあとやら、お祭りのあとやら、お正月に親戚と集まったあとやらに感じた、とてつもない淋しさを、この修学旅行のあとに感じました。

まっすぐに家に帰れなくて、公園でビールを飲みました。

そして、想い出にふけりました。

あ～、楽しかった！

私の知っている先輩達のもっと上の先輩達に会ってみたかった。よく、先輩達に聞かされていた、「今の精華もおもろいけど、俺らの上の世代はもっとスゴイで。」って、その先輩達に会ってみたかった。

なんてことを漠然と思っていたら、本当に会ってしまった。

精華が始まった当初の話が聞けたり、伝説の黒ＢＯＸの話が聞けたりで、とても感激した。

特に楽しかったのは宴会。久し振りに精華の空気に触れました。

英文科の子は、美術の人達をイヤがる子もいたけど、私は大好きだったし、個性的で自由でのびのびしている姿がとても羨ましかった。授業がない日でも遊びに行ってました。

今回、初参加で、知っている人が1人もいないかもしれないと思ったし、10何年振りの精華のノリについていけるか不安だったけど、勇気をふりしぼって参加してみました。やっぱり初めて会う人ばかりだったけど、初めて会う気がしない人ばかりで、時代は流れても、精華は精華やなあと思い、ホッとしました。精華魂は受け継がれるんやなあ。

私の方からはあまり話すことは出来なかったけれど、徐々に慣れてくると思うし、そのうちみんなの前で歌うことが出来たらなあと思います。

ステキな先輩達に出会えたことに感謝。思い切って、行ってよかった。山倉さんに手相みてもらったし。

もう1週間たってしまったけど、まだまだしばらくは想い出をハンスウしながら生きてゆけそうです。

みんなで何か共同作業なことがやりたいなあ。

アイディア浮かんだら、またメールします。

編　皆様次回のイベントでまた会いましょう。

今年の東京五月祭は都内に焼き鳥屋「精華亭」（仮）一日限り貸し切り営業！

昨年は諸事情で中止してしまった東京五月祭ですが今年の五月祭は都内の焼き鳥屋を一日貸し切りで「精華亭」として営業すべく物件を物色中です。焼き鳥を焼く人も店員さんもお客さんも全員精華人ということで、だいたい三時頃開店して十時くらいまでやってる予定です。好きな時にきて下さい。もちろんご家族やお友達も大歓迎。店員になったり運んだりしてもらうこともあるかもしれませんが、それぞれの楽しみを見つけて下さい。それでは詳細決まり次第案内メールを送りますのでアドレスの登録を事務局山倉まで。連絡業務の簡略化のためメール連絡システムにご協力をお願いします。自身や知り合いが焼鳥屋をやってたりする人、是非メールください。案内の手紙も出しますのでよろしくお願いします。

予定

場合によっては野外で焼き鳥パーティーかも

会費：2,000円くらい
問い合わせ
木野会東京事務局　山倉方
kenshi_96box@ybb.ne.jp

同窓会「大人の修学旅行」の一日

①集合は新宿西口昼の1時、役員は11時に集合、あからさまに怪しい姿のため尋問・注意を受ける

②無事全員バスに乗り込み鬼怒川へ、もう酔ってる人います

④べよんじゅ（ph,a）サル、トリ、女子高生、おっぱい等を交えビンゴ大会、飲み放題食べ放題の宴会へ、その後部屋を移して二次会へ、朝の4時まで飲んでた人も。

③ホテルに着いたら浴衣に着替え一風呂浴びて宴会へ

⑤翌日は朝食後一風呂浴びて帰路東京へ、途中おみやげ休憩をはさみながら3時新宿着、お疲れさまでした、次の同窓会は？　アイディア募集中！

92P塩田千春さんの『落ちる砂』展に行ってきました。

3年前の横浜トリエンナーレで大きな泥だらけのドレスを出品して話題になった塩田さんは、昨年はスペインのオペラ「カルメン」の舞台で有名なセビリアでの国際展、セビリア・ビエンナーレにも出品しています。塩田さんはベッドシリーズを出品して話題になってる国際的美術家です。今回は8／25～9／25まで東京新宿の「ケンジタキギャラリー」での個展に行ってきました。真っ暗な画廊の中でビデオモニターにベッドシリーズの映像が淡々と流れていました。西欧の屋根裏部屋らしきところでベッドに寝ている少女〈塩田さんかな？〉に天井から砂が落ちているだけの不思議な感覚の映像でした。ドローイングの販売もありました。皆さん！世界を相手に作品発表している精華卒業生「塩田千春」さんを応援しましょう！現在32歳、ベルリン在住。

編集・デザイン　イモト77P9ナオキ　写真撮影　山倉研志

●木野会東京支部では行事を手伝っていただける方や役員を募集してます。
●会報を編集・デザインしてみたい人も募集してます。データ入力できる方。経費出ます詳しくは事務局まで。

木野会西日本支部
情報コーナー

KINO WEST ⑧

キノウエスト

2005

西日本支部事務局
〒709-0626 岡山市中尾472
（株）岡山城東広告内 津下勝年方
「木野会西日本支部」
E-mail tsuge@iisland.co.jp
Tel 086-297-9601
Fax 086-297-2399

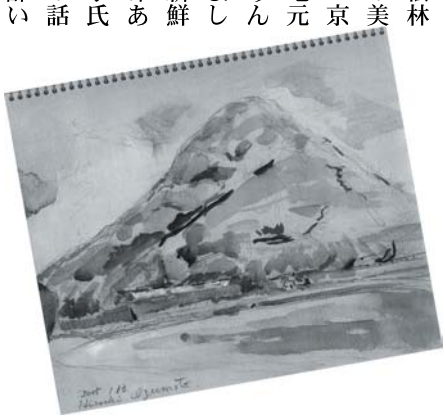
山口県萩市、日本海に面した古い城下町、松陰神社や萩焼、活の良い魚介類と、おいしいお酒。今回の西日本支部同窓会はここだ!! 東京支部が「大人の修学旅行」なら西日本支部は『アートな同窓旅行』で決定！ 去る7月18、19日「精華人」萩に大集合。69年から92年まで12名参加しました。場所は萩焼体験教室「千春楽城山窯」にてまずは全員陶芸家になりきり好きな作品に挑戦です。指導して下さるのは萩焼作家、金子信彦氏（第42回朝日陶芸展グランプリ受賞）同窓生の1人と親交がある為ていねいに1人ずつ手とり足とり？教えていただきました。（焼きあがったら各人の家まで送って頂けるので皆楽しみに数週間待ちました。作品の出来はさすが素人らしさバリバリバリューでした。）

金子先生のプロの腕前はさすが、デモンストレーションで1枚大皿を作っていただきました。後からくじ引きであたった同窓生がお持ち返りとなりました。外れた人達のブーイングは相当なものでした。窯の向かいに有る金子氏のギャラリーへ足を運び説明を受けながら、萩焼の侘び寂びの世界に浸りました。

さて宿泊は窯から歩いて10分ほどの所、日本海の浜辺に沿ってたたずむ陶芸の宿「千春楽」です。目の前に広がる日本海を眺めながらの露天風呂よし、お風呂がそのまま萩焼の美術館、お風呂に浸かって萩焼の名品を鑑賞できる大浴場よし、部屋から楽しめる白い砂浜の菊ヶ浜と緑の松林の向こうに広がる日本海の美しさよし。参加者は愛知、京都、徳島、岡山、広島、地元山口と多方面から来て、みんな温泉で旅の疲れを癒しました。夜は獲れたばかりの新鮮な魚介や旬の素材を充分味わせてもらいました。金子氏も一緒に、料理、酒、器の話に花が咲きました。ほろ酔いで浜に出て潮風と星空と波の音、萩は遠かったけど来て良かった、全員そう感じていました。語らいは遅くまで続きました。

さて2日目は、市内見学に出かけた人、再度萩焼土ひねりをする人、のんびりお湯につかる人等々。

暑い中、当地名産の夏みかん天然ジュースがおいしいの。昼食は20分程ドライブして椿群生林の中にある食事処つばきの館です。玄武岩台地にトロイデ状の溶岩が噴出した小火山、笠山の頂上からの眺めは萩第一の景勝地となっています。60余種2万5千本のやぶ椿の群生林は寒い季節には見事な美しさとか。地ビール「チョンマゲビール」を発見ビールの味よりもネーミングに皆興味深々でした。



スケッチ「萩　指月山」　69Ｐ泉本　洋（第一美術協会会員）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

たのしい織物　七夕屋

90Ｔ植野竹代

卒業後もう少し「布」を織る勉強がしたいと思いセイカの事務局でアルバイトをしながら機織り修行のきっかけを探していたのですが、どうも京都では出会いがなく、日本の一番端っこから北上しながら探せばどこか見つかるだろうと思い、まずは与那国島から修行の地探しをスタート。結局新潟十日町市の職業訓練校「織布科」で紬絣の織物を学びました。（残念ながら一昨年廃校になってしまいました・・・・）

中央が植野竹代さん

その後、セイカの恩師、潮隆雄先生の転任先である広島市立大学芸術学部デザイン工芸科の実習アシスタントをつとめたのち1999年7月7日、山口県岩国市の実家の片隅で「たのしい織物七夕屋」という小さな機織り工房を始めました。2002年10月に名勝錦帯橋のそばに築120年の町屋を借り工房兼教室兼お店を構え現在に至ります。

昨年秋には「アートフェスタいわくに」

SEIKA

パフォーマンス in 備前 2005

参加者募集

精華人ならどなたでも参加出来ます。

2005年10月1日・2日

備前焼体験と牛窓同窓会旅行

計画中

☆1日　午後現地集合
　備前焼体験、同窓会
　ペンション宿泊
☆2日　日本のエーゲ海「牛窓」の海
　を大型ヨットでセーリング
　海鮮バーベキュー
1日目、2日目のみの参加も歓迎。
後日、備前焼窯出しの後　発表会計画

山口県　萩
2004年7月18.19日

萩焼窯元：
城　山0838-25-1666
千春楽0838-22-0326

萩焼体験 同窓会

2004 SEIKAパフォーマンス in 萩

昼食後ここで解散です。一泊二日の萩同窓会旅行、皆さんとお別れは淋しいけど次回また会いましょう。

西日本支部では昨年度まで同窓会の作品展、表現展（SEIKAパフォーマンス）を中四国各地で開催し、併せて同窓会を開いてきました。今回はアートな体験を通じて同窓会を楽しむ現地参加型の企画に変えました。小グループの同窓生の参加も増え（もちろん個人参加も）「これって結構いいかも！」という反響なので今年も現地参加型の同窓会を企画しました。全国から参加をお待ちしています。

72E　立岡洋子

吉野川河口干潟の保全活動

78Ｅ大久保多加代（松村）

紀伊水道に注ぐ四国三郎こと吉野川。河口には、５００ヘクタールほどもあるといわれる干潟が広がっています。その風景は「海へ続く、華麗で優雅な川のフィナーレ」といわれ、日本でも数少ない、豊かな生態系が残っている干潟として有名です。４キロほど上流に行けば、可動堰計画で住民投票も行われた、吉野川第十堰があります。（精華大ホームページに吉野川第十堰に関わった学生のレポートが掲載されています）現在この干潟の真上では、環状線道路工事による架橋建設が進んでおり、また高速道路計画で、もう一つの架橋建設予定などがあり、複合的に自然環境の影響が懸念されています。

今私は、この吉野川河口干潟の保全活動に関わっています。（たまたま、この干潟の近くに住んでいて、その景色がとても素敵で魅力的だったからというのがきっかけ）地域の小学校のＰＴＡ行事で、干潟での自然観察会を企画したり、干潟で遊ぶ体験イベントや、干潟写真撮影会などを行っています。多くの人に干潟を身近に感じてもらい、その重要性に気づいてもらいたいと思っています。以前、第十堰で、精華大の在学生と会ったことがありました。今後も「吉野川」を通して精華のみなさんとお会いする事があるかもしれません。その日を楽しみにしています。

http://www.ookuboisu.com 大久保椅子製作所勤務

同窓生のお店拝見

たのしい織物七夕屋

http://www.tanabata-ya.com

という地域の祭りで、教室の生徒たちと一緒に、「マチカドデハタオリ」というイベントを企画。路上に卓上織機を10台出して来場者のべ２００人でマフラーを織りました。街角に生えている草で染めたウールの糸が2日間で15本のマフラーになりました「織る」こと自体がアート表現だと思っています。

最近、織をやりたいという同世代の人がホームページを見て時々尋ねてきてくれますがとてもうれしいことです。

セイカを卒業する時、学長の中尾ハジメさんが「自分で作ったものを１０００円でも２０００円でもお金に変えていったらそれが仕事になっていくから」と言ってくれました。自分の作品が売れるたびにその言葉を思い出して励まされています。

今冬はマフラーのオーダーも受けています。お客様がイメージしている予想図を超えたいい感じの作品を作りたいなぁと思う今日この頃です。

山口県岩国市岩国1丁目7-10
営業日　第１２３の土日月曜日

kino shiga

しが支部だより

滋賀支部第4回　同窓会
たぬきのステンドグラス教室

六月十二日　土曜日　曇り時々雨

今日は朝からしとしと雨がふっていました。でも滋賀支部の同窓会でいろんな人に出会えるので楽しみにしていました。そして、ステンドグラスというものをつくることにも、興味がありました。案内のはがきにあったきれいなステンドグラスができるかな、どんなデザインにしようかなと。

なんや、小学生の作文みたいやないか。

今回はステンドグラスに挑戦しました。

滋賀支部の会員のステンドグラス作家に講師をお願いし、工房も使わせてもらいました。たぬきも時計をつくりましたので、実況中継風にレポートします。

まず、時計・フォトフレーム・鏡の中から一点選び、それぞれの枠を用意します。

枠に沿って色ガラスを切り、ハンダ付けします。色ガラスの前で迷いました。絵の具ならまぜてつくれますが、配色を考えると、なかなか決まりません。一度切りかけたガラスを返して、違う色にして、また取りにいって。次に、ガラスを枠にはまるように切っていきますが、切っても切ってもまっすぐいかない。ななめになったり、曲がったり、簡単にみえているのですがそうはいきません。ガラスはハサミで紙を切るようにはいかず、線を入れて折るのだそうです。助手のおねえさんに手伝ってもらってやっとパーツが一個完成。この辺から工房内は、シーンと静かになって、となりの人のことなどかまっていられなくなりました。デッサンの時の緊張感です。ただひたすらガラスを切る。まっすぐ切れますように。曲がりませんように。皆さん真剣でした。色ガラスのパーツができると、切り口にハンダを付きやすくするために、銅テープを巻いていきます。この作業は楽でしたが、細いテープを均一に巻くので、よそ見もできません。皆さん脇目もふらず、休憩もせず。たぬきはちょっとさぼってお茶で一服。くるっと見て廻りました。

四人の作業テーブルごとにピンク系ブルー系モノトーンとカラーがあって精華の実習室を思い出しました。日常ではこんな緊張感ありません。

いよいよ　ハンダ付けです。ハンダゴテは、熱いのでやけどしないようにと講師から注意があり、恐々やっていたのですが一気にハンダをつけないと、ダンゴ状態になり、熔かしてもう一度やり直し。

ますますゴテゴテとして、スカッとした線に仕上がらず、いつまでも同じところを行ったり来たり。時計のパーツは一番少なく数字の替りの色ガラス十二枚と真中一枚で早いのですが、鏡とフォトフレームは、どんどん細かくなり、ハンダをつける部分も長く細かくなっていきました。細かい方が仕上がりはきれいなのです。

そろそろ、懇親会の時間もせまってきて、ステンドグラス制作はおわり！といいたいのですが完成させないと帰れないので、できた人から記念撮影して解散となりました。

皆さん満足の笑顔でした。

たぬきはビールで乾杯！

いつものことながら、時間通りに始まったことがない滋賀支部の懇親会。ちょっと狭い会場で窮屈でしたが、その分　親密になれそうで、初参加の方もすぐに打ち解けられて、では、乾杯！

滋賀支部の話題

その①
京都バスに乗って京都駅から木野まで遠かった。いまでは地下鉄が走っているらしい。

その②
ＪＲ京都駅でいつも走っていた。草津線直通の電車に乗り遅れたらたいへん。

その③
滋賀県で精華出身といっても誰も知らない。聞かれたら京都の大学という。

会場を三十分延長して、それでも話は終わりそうになく、次回おたのしみに。

第5回 同窓会のお知らせ

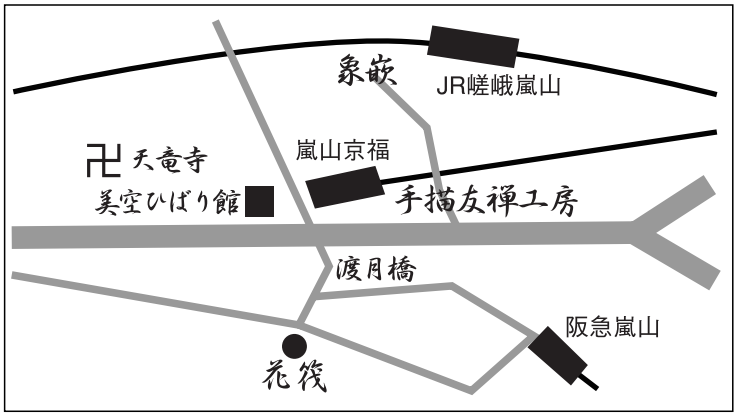
バーナーワーク
”とんぼ玉をつくろう”

十月頃の予定をしています。とんぼ玉は穴のあいたガラス玉。ケイタイのストラップにつけて、ひもを通してペンダントに。

第2回 イベント京都

開催のお知らせ！

近畿OB会員様



木野会近畿支部
情報コーナー

KINO KINKI
キノ キンキ
2005

近畿支部事務局
〒616-8255 京都市右京区鳴滝音戸山町4-102
前田好雄方
E-mail:maeda-saireiken@kyoto.zaq.ne.jp
TEL 075-462-6484
FAX 075-462-6484

― イベント京都概要 ―

◇近畿在住（大阪・京都・和歌山・奈良・兵庫）の精華OBの人々のご参加をお待ちしています。今回のイベント京都は京都嵐山を中心に行います。嵐山散策と温泉を楽しみ、象嵌や友禅染を体験することを通じ、OB会員の親睦を図ります

▷**開 催 日**　2005年５月21日(土曜日)
▷**集合場所**　JR嵯峨嵐山駅　AM9：50
▷**集合時間（体験）** AM10：00　1班・2班・3班
▷**会　　費**　Ⓐコース　￥4,500　京象嵌と懇親食事会（温泉付）
　　Ⓑコース　￥3,500　京友禅と懇親食事会（温泉付）

◆体験教室

Ⓐコース　京象嵌教室　AM10：00～AM11：00　1班（20名）
　ペンダント・タイピン　AM11：00～AM12：00　2班（20名）
　TEL：中嶋象嵌　075-871-2610
Ⓑコース　京友禅教室　AM10：00～AM11：00　3班（20～30名）
　ハンカチ　TEL：手描友禅工房 久利 匠　075-871-6361

◆懇親食事会

昼食と温泉「花筏」TEL：075-861-0228（はないかだ）
OB会員の自己紹介等　PM1：00～PM2：30　食事
　PM2：30～PM3：30　温泉
　＜各自フリータイム＞
※温泉は食事前でも入浴出来ます。各自フリーに楽しんで下さい。

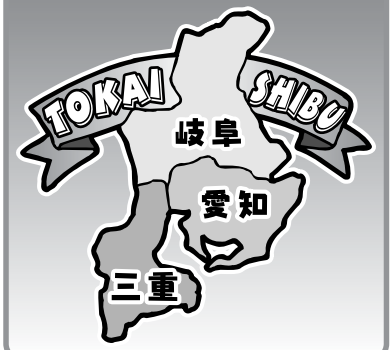
【食事メニュー】
湯豆腐料理と汲み上げ湯葉（酒代別途申し受けます）
▷**予測人員**　約70名を予定
▷**申込み〆切日**　平成17年4月末日
▷**申込み方法**
京都在住OB会員は葉書又はTEL ＆ FAXにて。
その他OB会員はメール又はFAXで
前田まで申し込みをお願いします。
ⒶⒷどちらかのコースを選んで下さい。

2004年近畿支部活動報告

2004年5月22日（土）、奈良にて第1回イベントを開催しました。木野会の入江会長、並びに68年度生から99年度生とお子様達にもご参加頂き、大盛会となりました。

今回の「にぎり墨体験」では、錦光園さんの工場で墨作成の工程を見学後、実際に炊飯ジャーに保存された暖かい墨の原料を各自が握った形のまま桐箱に入れて持ち帰り、3ヶ月の間自然乾燥させて出来上がりを楽しみに待ったという、大好評のイベントになりました。その後、あしびの郷蔵座敷で奈良郷土料理を頂きながら、なごやかなひとときを過ごしました。

木野会 東海支部 インフォメーション



木野りん村 東海 畑始めました!!

東海支部独自の活動として、とうとう畑を始めちゃいました。
場所は安城市デンパーク近くの農場の隅をお借りして、いろんな作物を作って行こうと検討中。ただいま春の苗を植える為の土を改良しております。
東海地方は決して都会ではありませんが、こうして土に触れ合える機会もあまり無い方が大勢いらっしゃるのでは？
そんな方もプロの農家の方も、是非この畑づくりに参加して下さい!!
ただいま4月に苗を植え込む作業をして下さる方募集!!一緒に「作る楽しみ」を味わいましょう。
秋には収穫祭も予定しています。盛大な「芋煮会」をやりましょう。
作業日記をホームページで公開していますので、そちらものぞいてみて下さい。

小作人1号、永井選手。耕耘機を触った事も無いそうです・・・。

2005年度同窓会予定

昨年末に東海地区卒業生の皆様に同窓会についてのアンケートをしていただき、次回の同窓会をどう行うべきか、を検討しています。
皆様の答えで多かったのは
時期／9月～10月　場所／名古屋駅周辺での会食型イベントということでしたので、そのように開催できるようにしていきたいと思っています。連絡は夏頃、ハガキとホームページにてさせていただきます。
皆様忙しいとは思いますが、是非参加していただけますようお願いします。

2004年度同窓会報告

2004年5月30日、デンパークにて「そば打ち体験」と同窓会を催しました。
朝から5月下旬とは思えない程暑い日でしたが、雨になると想っていた天気も良く、皆笑顔で集まりました。　さっそくそば打ち体験開始！参加者は12名と少なかったですが、近畿支部から山田さんの参加もあり、　もう和気あいあい！　自分達で打ったそばも太いのやら細いのやらの入り乱れで　皆時分のが一番上手いと自慢しだす始末…。実際、そば粉もとても上質なもので本当に美味しかったです！！夕方からは施設内の地ビール工房にて懇親会を開催。参加者も増え、さらに盛り上がりました。とてもカンジのいいお店だったので、ついビールの量も…。最後には近畿支部の山田さんも「東海支部の名誉会員」になって下さった（？）位打ち解けていろんなお話が進み、予定の時間を過ぎても話がつきませんでした。

ホームページを活用してください!!

皆さんは同窓会「木野会」東海支部のホームページが有るのを御存じですか？
活動報告、メンバー紹介、掲示板、リンクのページなど、とても充実したホームページを運営しております。卒業生が経営されているお店や、卒業生の方の展覧会などもどんどん紹介し、会員の方々の情報交換の場としても活用していただきたいと思っています。もちろん他の支部の方の参加もOK!!東海に住んでおられる卒業生の方と連絡を取りたい方や宣伝でも結構です。ホームページをお持ちの方は、こちらの方からリンクもさせていただきます。今の所掲示板は情報交換の場として結構役に立っている様子。いきなりお花見や飲み会を召集したりするのも楽しい活用法です。随時更新中ですので、是非足を運んで下さい。

よろしくお願いします！！

東海支部ホームページ
http://homepage2.nifty.com/YUKIKOTANIMOTO/s_top_frame.html

あとがき／東海支部として活動を始めて早5年。なんとか活動も軌道に乗りつつあり、皆様の参加、応援のお陰と感謝しております。東海支部役員は年に何度か本部の会合にも参加しており、皆様の意見を伝える役目も果たしております。まだ連絡の取れていない方もいらっしゃると思いますので、この機会に是非御参加下さい。運営を手伝ってくださる方も募集。あくまでも自然体で楽しく会を運営していくのが東海支部のポリシーです。よろしくお願いします！！

連絡先：杉浦　章介（73S）〒446-0036　安城市小堤町12－21　showsuke@katch.ne.jp
谷本有紀子（86D）〒441-0211　豊川市御油町栗木山229-2　SNC01137@nifty.com（ゼロ）

第17回 木野会総会報告

京都精華大学同窓会「木野会」
常任理事　宮城明和（77E）

第17回木野会総会は、2004年11月3日に京都精華大学本館3階会議室にて行われました。議長には萩原里栄子評議員（72P）を選出。新谷一男専務理事（70P）より2004年度の活動報告がされた後、各支部代表者からも報告がありました。どの支部も様々な行事を活発に取り組み、本部としては将来の展望を視野に入れての組織全体の活性化を検討した年でした。

再び新谷専務理事が2004年10月から2005年3月までの活動計画を提案。事業・会計年度が改められるため変則的な年度となります。

次に谷真美子副会長（69E）より2004年度の会計報告、および荒賀依右子監事（68E）による会計監査報告、引き続いて谷副会長からは2004年10月から2005年3月までの予算の説明がありました。そして、入江完会長（68P）が事業・会計年度変更を含めた定款の変更について提案。最後に新谷専務理事が2004年10月から2005年3月までの役員・評議員を紹介・提案しました。

こうしたすべての議案に対して階上からの異議はなく満場一致で可決。入江会長が今後の方針として大学、教育後援会とよりいっそうの協力・連携を深めて木野会の充実を図りたいという趣旨の言葉を述べて締めくくり閉会となりました。

総会終了後は久しぶりに悠々館1階レセプションホールにて懇親会を開会。木野祭と出来るだけ一体となれるようにと昨年までの長きに渡って明窓館横の常設テントを使わせていただきましたが、今回は校舎建設工事のため屋内に場を移し、ゆっくりとくつろいだ雰囲気のまま宴は盛況のうちに散会となりました。

在学生2005年デフリンピックに参加!!

人文学部環境社会学科3年 渡辺 亜紀

デフリンピックは聴覚障害者のオリンピックのことで、4年に1回開催されます。今大会は2005年1月にオーストラリアのメルボルンで開催されました。まだまだ知名度は低いですが、公式に認められており、今大会はメルボルンが総力をあげ、今までにない大きな大会となり、読売新聞などのメディアに注目されました。私は、2年前に女子バスケットボールの日本代表にエントリーし、2004年の春に正式に選ばれました。その後、月1回の合宿に励み、今年の1月にメルボルンへ出発しました。デフリンピックは世界各国から集まっている大きな大会でしたが、私たちに言語はあまり必要ではなく、各国それぞれ違いますが、たいていは手話で通じ合えることができました。試合は、今回が初出場であり、国際試合の経験がないまま試合に挑むことになりました。やはり、日本人と外国人の体格には差がありましたが、日本は日本なりの作戦をたてました。それは、切り替えを早くし、スピードやスクリーンを生かしたPlayで攻め、ディフェンスだけはしっかり守り抜けました。しかし、結果は1勝5敗で8位という結果で終わりました。

今回は初出場の試行錯誤の中での大会だったので、どの試合も実力が発揮できず今一歩だったように感じます。また4年後に台湾で行われる台北大会までに、今大会で足りなかったものを補い、得たものを糧にし、再挑戦をしたいと思っています。そしてメダルを狙っていきます。京都精華大学の同窓会のみなさま、この度は多額の援助を頂いて本当にありがとうございました。心よりお礼を申し上げます。

第18回木野会総会

毎年11月3日に開かれていました木野会総会が本年度から5月に行われます。

●木野会総会
・京都精華大学に於いて
・平成 **17**年**5**月**15**日
午後2時15分～3時15分／懇親会午後3時30分～5時

木野祭に合わせて開かれていました木野会総会ですが、会計年度（4月1日～翌年3月31日）が変更されたことに伴い、総会を5月に開くことになりました。
木野会を支える人達も年々増加し、本部の活動も多岐にわたり同窓生の親睦を中心に在学生のサポート、大学理事会・教育後援会との親睦、連携を図っています。各支部の活動もそれぞれが地域の個性を打ち出した企画・運営がなされています。このような事柄を会員の皆さんに報告しご意見を伺う場としております是非ご来場ください。
また、総会終了後には、ささやかな懇親の場を設けさせて戴きます。学年、学部を超えた親睦の場としてお気軽にご参加下さいますよう重ねてお願い申し上げます。

■11月3日（木野祭）の懇親会は従来通り当日午後に開催します。こちらの方にもお誘い合わせの上お出掛けください。

INFORMATION

NEW!! 九州支部設立

木野会では未設立であった九州地域の支部発足に向けて九州在住の高田まさみ氏（70T）旧姓前田高村玄氏（96L）柴田由梨子氏（96L）の方々を中心に準備を始めました。
九州支部設立同窓会を今年夏開催に向けて会場の設定、案内状の制作・発送、在住者のリスト作りなど地域での準備、その後の支部の運営を支えて下さる方を只今募集しております。九州ならではの支部を共に作りましょう。

詳しくは木野会事務局にお問い合わせ下さい。

京都精華大学同窓会木野会事務局
Ｔ075－702－5201
Ｆ075－721－9019

木野会から

「精華人の "わ" 広げましょう」

各地域で、もっと最近の大学の様子が知りたいといった意見を伺います。“精華人”ではそう言った意見を取り上げ、会報誌の充実を計って行きたいと思っています。また、一人でも多くの方が木野会に参加されることを望んでいます。「精華人」の届いていない、未入会のお友達を是非お誘いください。

「入会は簡単」

郵便局備え付けの振り込み用紙に学籍番号（入学年度、学部、学科）住所、 氏名（旧姓）電話番号、E-mail, を記入の上、終身会費1万円を振り込みください。

口座番号：京都0・42332
金額：￥10,000
京都精華大学同窓会木野会　宛

「自由自治の石碑」除幕式のご案内

建学の精神である「自由自治」が石碑になりました。
岡本清一先生の御出身地、京都の丹波石に刻まれた石碑は、卒業生の皆様の多くの募金と同窓会木野会そして同窓会の協力にて完成することとなりました。
除幕式を下記内容にて行いますので、ご案内させて戴きます。みなさまの参加をお願いします。
2005年４月24日（日）AM11：00～
京都精華大学悠々館（学生食堂ホール）前広場
除幕式後ささやかなパーティをおこないますのでご参加下さい。

当日同志社大学にて開催される「故・岡本清一先生 生誕100年記念講演会」が開催されます。参加御希望の方は、3月24日迄に、京都精華大学企画室（075-702-5201、仲村）に問い合わせ下さい。

懸賞作品募集

「表紙デザイン・文中カット大募集」

木野会会報誌では誌面に使用する作品を広く募集しています。表紙面を思い切りあなたの絵・デザイン・写真で飾ってください。
また文中で使えるカット画もお気軽にお寄せください。大胆な作品をお待ちしています。

●賞金・賞品
表紙デザイン1点…3万円
文中　使用カット1点に付…プリペイドカード

●応募方法
サイズ：縦18cm×横18cmの中で
技法：イラスト画、写真、版画など自由。ただし色は一色刷です。
カット画：自由に描いてください。
作品の裏には必ず作品のタイトル・コメント・住所・氏名・学籍番号・電話番号を記入してください。

●締め切り　平成18年1月15日必着

●宛て先
〒606-8588　京都市左京区岩倉木野町137
京都精華大学同窓会木野会「会報 表紙デザイン」係

●表紙制作者
加賀千珠子（77D 旧姓橋場）
卒業後デザインの仕事をしていましたが、大学時代に選択でとった木工芸が忘れられなくて、現在は主人と共に岐阜県養老で工房をつくり家具作りに追われています。

木野会報 精華人 第13号　発行日／平成17年3月20日　発行／京都精華大学同窓会「木野会」　〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137　TEL. 075-702-5201　FAX .075-721-9019　http://www.kyoto-seika.ac.jp/seikajin/index.html　編集／同窓会報編集委員会　印刷／(株) Thinks.

この冊子は再生紙を使用しています。